

野球部 南北北海道でベスト8

学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年7月22日
第26号

駒澤大苦小牧に惜敗

支部大会2回戦を勝ち上がった野球部は南北北海道大会に進み、函館で3校と対戦した。1回戦、札幌平岡に11-2（7回コールド）で勝利。2回戦、知内に1-0で勝利。準々決勝で駒澤大苦小牧に1-4で敗れ、ベスト8に終わった。3年生に感想を聞いた。

一丸となりやり切った 反省は今後に活かして

主将 長崎佳祐（3-12）

平岡戦は函館での初戦で不安はあったが、コールド勝ちできてほっとした。ピッチャーの近藤くんが152キロの自己最速を出せて良かった。

知内戦は高橋渉太くんが完封完投し、僅差で勝利できた。僅差で勝てたという経験は次の野球人生に繋がると感じた。良い試合ができた。

駒苦戦には「絶対勝ち、エスコンで試合する」という気持ちで臨んだ。負けて自分たちに足りないものを自覚できた。たとえば、バッティングではローボールを見送り、打つときは全力でスイング

する、全力で声を出す、などを徹底したい。負けたが、全員で気持ちを一つにして、やり切ったという思いはある。

プロ野球で活躍したい

ピッチャー 近藤琉唯斗（3-14）

3年間、野球以上に人間性、そして野球の技術を仲間と共に磨くことができたことをうれしく思う。卒業後はプロを目指しており、10月のドラフト会議で指名されるように今後も練習に励む。

7回表のファインプレー

レフト 宮崎遥大（3-14）

最後の試合の7回表の守備でフェンス直撃、ホームラン性の打球を夢中で捕った。近藤くん「とても助かった」と言われた。大学でも野球を続けたい。



怪我に苦しんだ

外野手 館飛雄真（3-13）

夏の大会前に怪我をして、あまりチームに貢献できず申し訳ない。

知内戦で大日方くんタイムリー

3塁コーチ 沖二城羽（3-14）

心に残っているのは知内戦で大日方くん（2-12）がタイムリー2ベースを打ち、貴重な1点が入った場面。高橋渉太くんの完封も立派だった。

▼ 7月9日 南北北海道大会 1回戦（函館）

	1	2	3	4	5	6	7	計
札幌平岡	0	0	1	0	1	0	0	2
小樽双葉	1	0	0	6	2	2	×	11

投手-捕手 近藤・高橋渉（6回）- 鶴来
3塁打 清野（5回）
2塁打 光股（4回）
7回コールド

▼ 7月13日 南北北海道大会 2回戦（函館）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小樽双葉	0	0	0	0	0	0	0	1	×	1

投手-捕手 高橋渉-鶴来
2塁打 中山（2回）、大日方（8回）

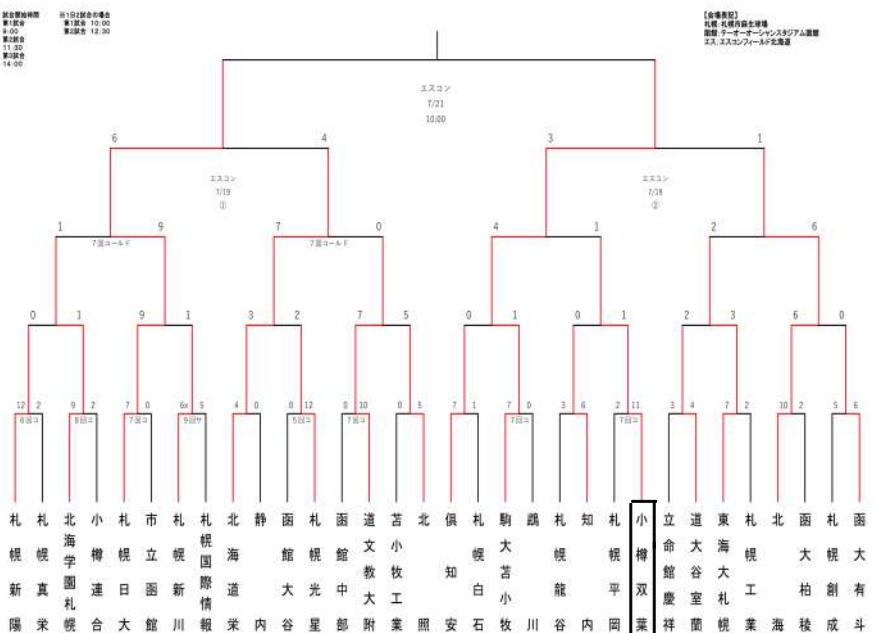
▼ 7月14日 南北北海道大会 準々決勝（函館）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
駒苦	1	2	0	0	0	0	0	1	0	4
小樽双葉	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

投手-捕手 近藤-鶴来



第108回全国高等学校野球選手権 南北北海道大会 組み合わせ（ベスト32以降）



決勝は札幌日大-駒大苦小牧。札幌日大が5-3で勝ち、甲子園に進む。



試合前には輪になって礼拝する



勝利して校歌を歌う

怪我で宮崎さんと交代

外野手 横溝太牙(3-4)
平岡戦のあとの練習で怪我をし、宮崎さんと交代した。悔しい申し訳ない。みんなエス

コンで試合したかった。エスコンで戦いたかった

ライト 清野寛太(3-3)



ベスト8に終わったが、みんなエスコンに進みかけた。駒苦

戦は残念で惜しい試合だった。勝つためにはチームの仲の良さが大事。冬の練習にしっかり取り組み、後悔のないようにしてほしい。

大会で本領発揮

ファースト 深澤大智(3-3)



正直、大会までの練習試合はうまくいってなかったが、今大会で双葉らしい野球ができた

と思う。心に残っているのは、大日方くんがタイムリー2本を打ち、菊地くんがホームに帰ってきた瞬間。

部活動を振り返り、楽しい時間は短く、つらい時期は長いと感じる。



↑知内戦でタイムリーヒットを放つ大日方瑛滋くん(2-2)

後輩にはうまい。今の時、頑張っている。

大学さらに社会人野球を

ピッチャー 高橋渉太(3-3)

知内戦の完封は野手と一緒にとった勝利、守備も堅かった。卒業後は大学で野球をし、将来は社会人野球で活躍したい。

初のベスト8の瞬間忘れない

キャッチャー 鶴來莉玖(3-2)



印象に残っているのは、知内戦の最後のバッターを光股、深

澤が守り切り、ベスト8が決まったときです。野球部の歴史で初めての成績でした。

卒業後は大学でも野球を続けたく、セレクションを受けて、取ってもらいます。

教職に活かしたい

ピッチャー 能登丈偉(3-3)

ベンチで声を出し、勝ちに繋がれたらと思っています。

卒業後は北翔大学で教職を取り、野球も続けたいと思います。

めっちゃくちゃ楽しい時間

セカンド 光股歩叶(3-4)



今大会は貴重な経験となりました。

た。プレッシャーはありました。が、めっちゃくちゃ楽しい時間でした。高校で野球は止めますが、色々な人に、特に親に感謝しています。その感謝の思いをプレーで示すことができました。平岡戦で1-1のときに勝ち越

しエンドランをかけ、2-1で逆転したときのことです。

高校卒業後は柔道整復師になる勉強をし、医療面でプレーヤーをサポートしていきます。

知内戦でホーム踏んだ

ショート 菊地琉斗(3-3)



知内戦で内野安打で出塁し、大日方くんの2塁打でホームを踏むことができました。

した。そのときはめっちゃくちゃ気持ちよかったです。

駒苦のピッチャーは中学で同じ野球チームにいた人で、「こんなところで対戦するとは」と思いましたが、うれしかったです。彼からヒット1本、フォアボール1つを取りました。

大学でも野球をやります。

チーム一つになれた

サード 加賀谷季希(3-4)

冬は部内で激しい喧嘩もしていました。3月の遠征で「チームが一つになる」ことを話し合い、共有しました。知内に勝ち、あと一つでエスコンへ。夢に近づいたと思います。

スポーツに関わる仕事に

DH 中山尚大(3-2)



駒苦戦ではラストバッターでした。「何とかしよう」と打席に入りましたが、思ったよりも緊張せず臨めました。でも終わりました。

知内戦では2本ヒットを打つことができました。大学は岩見沢教育大の体育科に進み、スポーツに関わる仕事をしたいと考えています。

野球部の団結力が上がった

キャッチャー 高橋蓮斗(3-4)

負けた瞬間、泣きました。野球部の団結力は上がったと思います。大学では経営学を学ぶつもりです。

野球を続けて良かった

ファースト 田中空(3-2)

心に残っているのは知内戦で大日方くん(右2人目)がタイムリーを打ったときです。その前に円陣を組んだときに「今日は僕が決めます」と言い、有言実行でした。



頼もしい後輩です。野球部の経験は楽しかった。野球を続けて良かったです。

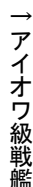
進路は旭川教育大学の国語で野球も続けたいと思います。

良い経験と思い出できた

ピッチャー 平野義人(3-3)

全道での出番はありませんでしたが、仲間と共に野球ができた。良い経験と思い出できました。これから大学進学に向けて頑張ります。

第4回



主砲の射撃試験中の戦艦『大和』

によって主砲が運搬され埋め込みや各部品の接続が完了すると、誰もが思い浮かべる『戦艦大和』が姿を現しました。実は海軍省から戦争に間に合わせるため大幅な工期の前倒しが行われており、最初は昭和17年6月の完成だったものを6ヶ月の前倒しで完成されたものでした。こうして秘密裏に建造された『大和』は、存在が海軍で広く知れ渡っていきました。しかし、軍港付近の住民以外の国民にはその存在が完全に秘匿されたことになりました。完成した『大和』には、乗艦する乗組員の選定が行われ、次々と充当されていきました。乗組員の選定時には既に『新型戦艦』の存在は認知され、懂れの存在として捉えられていました。また、この時から『不沈艦』という言葉も広く知れ渡りました。更に『大和が沈む時は日本が沈む時だ』というように、『戦艦大和』は海軍の象徴であり、不沈艦だと信じられていました。乗組を命じられた兵が初めて『大和』を見た時には「山みたい」「美術品のよう」「スマートだった」「格好良かった」「驚いた」などの感想が思い浮かんだそうです。大和型は、その船体の大きさから迷子になる者が続出し、新米乗組員はスタ